

保存版

家庭学習の手引き



相生市学力向上委員会

平成26年4月

相生市学力向上プランの柱の中に、「学校と家庭が協力して家庭学習の習慣化を図ること」があります。自ら学ぶ子どもたちを育てるには、学校での授業だけでなく子どもたちが安心して生活できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日継続して学習に取り組むことが重要です。

そこで相生市学力向上委員会では、家庭に協力を求め児童生徒の家庭学習の定着を図るため、「家庭学習の手引き」を作成しました。各家庭において家庭学習の内容や方法を考える参考にいただき、子どもの実態に合わせた活用をお願いします。

家庭を「学び」の環境に

子どもは家族に認められ励まされることで「がんばってよかった」という充足感を持ち、「見守られている」という安心感の中で、自分らしさや努力することに自信を持つようになります。

学校と家庭とが協力し合って、子どもの「すすんで学ぶ力」を育てていきましょう。

家庭が心がけること

- ☆ 生活リズムを整え、決まった場所と時間で、**学習に集中できる環境**を
- ☆ がんばりを認め、励まし、対話のある**温かいふれあい**を

学校が心がけること

- ☆ 基礎学力をつけ、学び方を教え、主体性を育てる**学習指導**を
- ☆ 子どもに合った**家庭学習の提案**を

家庭学習を効果的にするために

長続きさせるポイント

- 始める時刻を決める
- 学習する場所を決める
- テレビ等を消し、机等の上を広くしてから始める

家庭での援助

- テレビを消したり、机上を整頓したりして学習環境を整える。
- 学校からの連絡帳やお便りなどを必ず確認する。
- 子どもが学習したことに目を通す。
- 子どもが尋ねてきたら一緒に考えたり答えたりする。



基本的な学習習慣をきちんと身に付けましょう。

家庭学習のポイント	①	基本的な生活の習慣を身につける！ 「早寝、早起き」「しっかり朝食をとる」「朝の排便」「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「机の上を整とんする」「テレビやゲームの時間を守る」などの基本的な生活習慣を身につけることが、これからの学習の土台となります。
	②	愛情のこもったコミュニケーションを！ 小学校1・2年生の家庭学習には、家族の手助けが欠かせません。その際、「やったね！」「よくできたね！」などのほめ言葉がすばらしい意欲をうみだします。学習習慣定着のためには、愛情あるコミュニケーションで、ねばり強く働きかけていくことが大切です。
	③	家庭に学びの環境を！ 大人が、お手本となるような「学ぶ」姿勢を見せましょう。家族ぐるみでよりよい学習環境づくりにつとめることが大切です。例えば、子どもにあった本を周りにおく、読み聞かせをする、などの取り組みは効果的です。

家庭学習の参考例

国語	音読	- 点や丸に気を付けて大きな声で読む。 - 間違えずに読む。
	かなの練習	- ひらがなやカタカナや漢字の筆順に気を付けてノートに練習する。 - 漢字を使って、言葉作りや文作りをする。
	視写	教科書等を見ながら、ノートに同じように写す。
	日記	日付、題名を書いてからその日にあった出来事を書く。
	読書	- 自分で読んだり、家の人と一緒に読んだりする。 - 心に残ったところや好きな場面を絵や文でかく。
算数		- その日に学習したことをノートにもう一度やってみる。 - たし算やひき算、かけ算（2年生）を使った文章題を作って解く。 - まちがった問題をもう一度解き直す。 - 時計（アナログ）を見て、何時何分か読む。 - 書いたり、唱えたりしながら、計算や九九の練習をする。
その他		- ジョギングやなわとびなど体力づくりに取り組む。 - 鍵盤ハーモニカの練習をする。 - 生活科の学習内容（生き物、植物など）に関わる調べ学習をする。

自ら学習に向かう習慣を身に付けましょう。

家庭学習のポイント	①	自分でできることは自分で！ 小学校3, 4年生は好奇心が旺盛となり、自立心も芽生えてくることから、自分でやろうとすることが多くなります。自分でできることは自分でさせるようにしていくことが大切です。だからといって任せきりにするのではなく、特につまずきや苦手なことについては、家族の温かい励ましやアドバイスがやる気をおこさせるうえでとても重要です。
	②	規則正しい生活の再確認と見直しを！ 時間を意識させ、けじめをつけさせることは、自律心や学習への集中力を高めることにつながっていきます。特にテレビやゲームなどの時間を家族で話し合いながら決めて、自分で守るようにさせていくことが大切です。
	③	意欲を引き出す言葉かけを！ 学習範囲が広がることで、学習の個人差も出てきます。そのような時には、友だちや兄弟・姉妹と比べるのではなく、子どもの「やる気」を見のがさないようにしてほめたり励ましたりすることで意欲を引き出していくことが重要となります。

家庭学習の参考例

国語	音読	- 教科書の文章を声に出して正確に読む。 - 様子を思い浮かべて工夫して読む。
	漢字練習	- 学習した漢字を繰り返し練習して、正確に書いたり読んだりする。 - 漢字辞典などを使って、新しい漢字の成り立ちを調べてまとめる。
	言葉のきまり	- 国語辞典などで熟語の意味を調べる。 - ローマ字を繰り返し書いたり、読んだりして覚える。
	日記	伝えたい内容を分かりやすく書く。
	読書	- 教科書に出てきた作家や同じテーマの作品を読む。 - 読んだ本の感想や紹介文を書く。
算数		- 学習した内容をドリルやプリントで復習する。 - 間違えた問題を最後まで直す。 - 学習した図形を正確に書く練習をする。 - 自分で問題を作って解いたり、考え方を図や言葉を使って説明したりする。
その他		- ジョギングやなわとびなど体力づくりに取り組む。 - 学習したことでさらに興味をもったことを調べたり、まとめたりする。 - 聞き取り（買い物調べ、ゴミ調べなど）や観察（生き物、天体など）をする。 - リコーダーの指使いに気を付けて、きれいな音でふけるように練習する。

自ら予定を立て、自力で学習を進めましょう。

家庭学習のポイント	①	予定を立て、計画的な学習を！～勉強時間を決めて～ 児童会活動など学校での役割が増え、放課後が慌ただしくなります。充実した日々を過ごすため、その日の予定を立て、見通しを持って学習しましょう。学習する時間を必ず決めましょう。
	②	今一度、基本的な生活習慣の見直しを！～生活にリズムを～ 生活のリズムは、決まったことを決まった時刻にすることから身につきます。「起きる時刻」「食事の時刻」「寝る時刻」などを決めて生活しましょう。テレビやゲーム、コンピュータなどの時間がだらだらと長くなりすぎているかも再確認しましょう。
	③	目標に向かって努力することの大切さを！ 将来の夢や希望、学習する目的や学校での様子、失敗談などを家庭で話し合い、目標を持って努力することの大切さについて考えてみましょう。自分がどれだけがんばったのかが大切な点です。伝記（偉人伝）などを読んで、人の生き方に関心を持つのもいいです。

家庭学習の参考例

国語	音読朗読	- 教科書の内容をつかむため、ていねいに読む。 - 様子や気持ちが相手に伝わるように意識して読む。
	漢字練習	- 正しく「読み」「書き」ができるように繰り返し練習して確実に覚える。 - 学習した漢字の意味を調べる。
	言葉のきまり	- 辞書を積極的に使用し、語いを増やす。 - 敬語の使い方を覚える。
	日記	自分でテーマを見つけて書く。
	読書	- いろいろなジャンルの本を読む。 - 読んだ本の感想や紹介文を書く。
算数		- 学習した内容をドリルやプリントで復習し、ノートやファイルに残す。 - 学習した内容をもう一度ノートにまとめ直す。 - 自分で作問し、自分で解く。 - いろいろな解き方に挑戦する。 - 間違えた問題はどこが違うのかを考えて直す。
その他		- 学習した内容（理科、社会など）をノートにまとめ直し、学習を深める。 - ジョギングやなわとびなど体力づくりに取り組む。 - 教科書や資料集を使って新聞作りをしてまとめる。 - テスト前に復習をする。

計画的・継続的な学びを進めましょう。

家庭学習のポイント	①	予習・復習の習慣を身につける！ 小学校に比べると、中学校の授業内容や授業進度については、かなり負担を感じる生徒が多くなります。あらかじめ自分で調べたり、考えたりして授業に臨む（予習）ことや、その日のうちに教科書・ノート・プリント・ワークなどをつかって学習のポイントを整理する（復習）ことによって、授業の理解度や定着が大きく違ってきます。
	②	学校・先生のプリントを有効活用する！ 学校で配られるプリントには、学習のポイントが整理されています。バラバラにならないように、きちんと整理して、活用することが大切です。毎日の予習・復習にはもちろん、テスト勉強の際にも見直したりして有効に活用しましょう。
	③	問題を解いた後がもっとも大事です！ 間違ったところは必ず見直し、問題に印を付けておきましょう。印を付けた問題を先生や友だちに相談するなど、テスト前は印がついた問題を重点的に確認しましょう。分からない時は、分かるところまで戻って解くことも大切です。

家庭学習の参考例

国語	- 教科書にある詩などの、短い文章を声に出し何回も読む。 - 本に親しむ。 - 教科書に載っている新出漢字を書いて覚える。 - 日記や手紙を書く。
社会	- 教科書を読み（次の時間に学習する範囲）、太字、むずかしい語句やわからない語句をチェックする。 - 教科書とノートを見比べて、学習した内容を振り返る。 - 学習した範囲のワーク整理をする。 - 小テスト等に向けた重要語句の確認をする。
数学	- 授業中に解いた問題を家庭学習用ノートに書き出して、もう一度解く。 - テスト前は、ワークの問題をくり返し解く。 - 正解しなかった問題には印をつけておき、繰り返しチャレンジする。 - テスト前は、印のついている問題を中心に復習する。
理科	- 学習した内容について、その日のうちに復習しておく。 - ワークの基本的な問題を繰り返し解く。 - まとめのプリントなどで、理解を確認する。
英語	- 授業中のノートの見直しをする。 - 宿題や授業中に間違った問題の解き直しをする。 - 授業で学習した本文の音読をする。 - 習った単語の練習をする。 - 教科書の文章を暗記するまで何回も読む。

進路に向けて目標を明確にして取り組みましょう。

家庭学習のポイント	①	進路の目標を具体的に決めて、計画を立てる！ 進路の目標がはっきりしないと具体的な計画は立てられません。目標は早く決めて、目標に向けて何が不足しているのか、何が必要なのか、現在の自分の力がどれくらいなのかをよく考え、努力すべき点を明確にすることが大切です。そのためにも家族でしっかりと話し合いましょう。
	②	生活リズムを整え、上手な時間の使い方を工夫する！ 睡眠不足では疲れが取れず、集中力も続きません。また、朝食を抜くとエネルギー不足となり、脳の活動が悪くなります。自分の力を最大限に伸ばすために生活リズムを整え、家庭学習の時間やテレビ等の視聴時間など、上手な時間の使い方を工夫しましょう。
	③	3年生の学習内容と1・2年生の復習を両立させる！ 部活動引退前、部活動引退後、長期休業中など、時期によって時間の使い方を工夫しましょう。 （例えば、引退前は、平日は3年の予習復習、休日は1・2年生の復習をする。長期休業中は1・2年生の復習を中心にする。）自分にあった方法を工夫し、中学3年間のまとめの学習になるようにしましょう。

家庭学習の参考例

国語	- 漢字は繰り返し書いて覚える。 - 長文の読み取り、古典の音読など文章を読む力をつける。 - 文章の表記の仕方など、表現する力を付ける。
社会	- 重要な語句をノートなどにまとめて整理し、暗記する。 - 教科書や資料集を繰り返し読んで、内容の理解に努める。
数学	- 計算力をアップする。 - 数学の公式は繰り返し使って覚える。 - 文章題は、同じ問題や似た問題を問題集などで解く。
理科	- 理科の用語をノートなどにまとめて整理し、暗記する。 - 実験、観察の図やグラフなどの資料を読み取る力をつける。
英語	- 単語や文型などは、繰り返し書いて覚える。 - 授業で学習した英文は、必ず声に出して読んでみる。 - 英文を日本文に直したり、日本文を英文に直したりしてみる。